

令和元年度 共助社会づくりを進めるための検討会 検討結果報告 ～東京2020大会を契機としたボランティア文化の定着に向けた新たな仕組みについて～【概要版】

令和2年3月30日
都民生活部

背景・趣旨

- 従来の福祉や災害に加え、スポーツや観光など、多岐にわたる分野にボランティア活動が広がっている。また、活動に参加・継続する動機も、社会貢献への意欲の他、楽しさや仲間とのつながりなど多様化している
- 東京2020大会を契機に、多くの都民や、企業や教育関係者など、様々な関係者や団体がボランティアとして活躍し、ボランティア活動の気運が高まることが見込まれる
- この気運を一過性のものとせず、ボランティアを文化として定着させるため、**大会関連ボランティアの『活動（気運）の維持・継続』とボランティア参加者の『裾野拡大』**に向けた新たな仕組みを構築する

継続・裾野拡大のために必要な要素

多様な興味・関心への対応

- 趣味やスキルなど自分の関心事や経験に対応する活動、イベント型の楽しめる活動、気軽に参加できる活動などの幅広い活動を示す

➡ 自分に合った活動が見つかる

オープンかつシンプルなネットワーク

- メールアドレスだけで気楽に登録・脱退ができる
- 同じ気持ちを持った仲間と出会い、交流できる

➡ 参加しやすくなる

モチベーションの継続と活性化

- 活動に参加して楽しかった、役に立ったことを実感できる
- 新たな出会い、感謝の言葉などの「ギフト」がある

➡ 活動の促進・継続・活性化

コーディネーターとの連携

- 中間支援組織、受入側、送り出し側等、それぞれのコーディネートに新たな仕組みを活用する

➡ 活動の後押し・促進・継続・活性化（再掲）
地域での魅力ある活動の増加

双方向のコミュニケーション

- 活動によって得られた喜びや楽しさなどの生の声を共有（投稿・閲覧）する

➡ 身近な自分事としてボランティア活動への関心が高まる

既存組織・団体の連携

- 運営ノウハウ等を共有する
- ボランティア活動継続・裾野拡大に向けた取組を分野・組織横断的に展開する

➡ 地域での魅力ある活動の増加（再掲）
新たな仕組みの取り組みが都域全体に広がる

継続・裾野拡大のための新たな仕組み

- 上記の要素を実現するための仕組みとして、4つの事業を展開する

- 4つの事業が相互に連携することで、より効果的なものとなる

ウェブシステム

- ・ 様々な情報を収集・掲載し、ボランティアに関わる全ての人や団体が情報を発信・共有し交流するプラットフォームをウェブ上に構築する
- ・ イベント、広報、協議会と連動し、仕組みの中心的な役割を果たす

イベント

- ・ 顔の見える交流の場として、体験の共有や、新しい仲間やボランティア団体等との出会いの機会を提供
- ・ 仕組みへの参加気運を高めるとともに、活動へのモチベーション維持・活性化につなげる

広報

仕組み全体の周知や気運醸成を図り、ウェブシステム・イベントへの間口を広める

協議会

協議会構成団体間の連携を強化し、効果的な仕組みの運営を支え、実績のある団体が参加することで信頼性を高める。

➡ **中間支援組織、企業、教育機関、NPO、行政 等がそれぞれの強みや特徴を発揮しながら仕組みを活用することで、ボランティア文化が定着し、共助社会の実現につながる**